

vol.  
**65**  
2026  
summer



Osaka Kyoiku  
University  
Public Information  
Magazine

大阪教育大学広報誌

# Ten You

天遊

**Athlete's View !**

**ラボ訪問**

**卒業生CATCH!**

**BAGの中身**

**附属学校園ウォッチ**

**今号の表紙学生**

**TOPICS**

特集  
1

授業探訪～教員養成フラッグシップ科目～  
**ダイバーシティと教育**  
**教科横断と探究学習II**

特集  
2

ボランティア  
**Study After School**



# 授業探訪

## ～教員養成フラッグシップ科目～



対象  
学生 学校教育教員養成課程  
養護教諭養成課程  
教育協働学科

学年 1回生

さいとう なおこ  
齋藤 直子 准教授(総合教育系)

やぶ た なおこ  
薮田 直子 特任准教授(多文化教育系)

## ダイバーシティと教育

この授業では、多様な子どもたちが集まる学校現場や、複雑化する社会において必要な「**共生(包摂性)**」のあり方を学びます。  
目的は「**多様性とその価値について基本的理念を理解すること**」です。  
今回は、薮田直子特任准教授と齋藤直子准教授が担当する、スポーツ健康コースおよび心理科学コースの授業を訪ねてみました。



### 「自分自身の立ち位置」に 目を向ける対話

全8回のうち6回がオンデマンド、2回が対面で行われる「ダイバーシティと教育」。第4回の対面授業では、それまで画面越しに学んできた学生たちが対面し、グループワークを行います。授業の冒頭では、薮田特任准教授から授業を受ける上での「4つのルール」が説明されました。「1つ目、参加しよう。ワークの主役は皆さん自身です。2つ目、尊重しよう。他のメンバーの話を傾聴してください。ワークに正解や期待された答えはありません。3つ目、秘密は守りましょう。ここで話されたことは、ここだけの話。授業の外には持ち出さないでください。4つ目、パスOKです。話したくないことは話さなくて大丈夫。しんどくなったら一時退出しても大丈夫です」。このルールは、自分自身に目を向けるうえで大切です。

第1回から第3回までのオンデマンド講義を振り返ったあと、いよいよグループワークへと移ります。しかし、いきなり話し始めるのではなく、ここでも対話を深めるための「ディスカッションの3つの約束」が共有されます。「1つ目、メンバーの話をよく聞くことを大切にしてください。話し手が上手に話すことよりも、聞き手がよく聞くことを大切にしましょう。2つ目、“私”を主語にして話すこと。正直に今の自分の位置から意見を話しましょう。3つ目、当事者がそこにいることを想定して表現を選びましょう。こういう人が嫌い、生理的に無理といった表現は控え、別の表現で“私”の気持ちを伝えられないか工夫しましょう」

### 「分らない」という本音こそが、 深い学びへの入り口

ワークが始まると、ある学生からこんな本音がこぼれ落ちました。「今まで自分と違う境遇の人とあまり関わったことがないから、正直、多様性というものがよく分かっていない」。一見するとネガティブに捉えられそうな言葉ですが、「分からなくなる」ことは薮田特任准教授と齋藤准教授が大切にしていることです。多様な人が共生する社会では、他者に対する慎重さも重要です。薮田特任准教授と齋藤准教授はこう話します。

「この授業を受けると、『自分のことを考えていなかった』と話す学生が多いです。ダイバーシティを学ぶ際、学生の多くは困っている人に優しくしなければと、意識が外に向いてしまいがちです。しかし、この授業では、声を上げることも自分たちの権利だということを学びます。その根底を探ると、『自分も大切にされたい』という抑圧された気持ちに気づくこともあります。だからこそ授業では“あなたが大事”というメッセージを伝えています」

### 学生へのメッセージ

薮田特任准教授「私たちは学ぶ過程で、答えがないということに慣れていません。けれども、今後現れる新しい人権課題に気づいていくためには、決まりきったことだけ学ぶのではなく、自分の考えを話したり、他者の意見を聞いていろいろなことを感じたりする経験が必要不可欠だと感じています。私自身も学生に励まされながら一緒に頑張っています」  
齋藤准教授「自分自身のこれまでの振り返り、自分の傷やしんどさをしっかり受け止めて、今だからこそ考えられることをたくさん考えてほしいです。また、自分が何かを不当であると感じたときに、適切に声を上げる。そんな力を、知識とともに身につけていってほしいと思います」

## 教科横断と探究学習Ⅱ

この授業では、一つの教科の枠組みだけでは解決できない課題に対し、自ら問いを立て、多角的な視点で解決の糸口を探ります。  
目的は、「**従来の縦割り型の学びを超え、知識を横断的につなげていく思考力を養うこと**」。  
今回は、小崎恭弘教授が担当する、教科教育専攻家政教育コースの授業を覗いてみました。

### 紙おむつから広がる学び

「この紙おむつは、家庭科以外ならどんな教科とつながると思いますか?」という小崎教授の問いかけから授業は始まりました。学生たちの机の上には、紙おむつやピーカー、はかりなどが並び、一見すると保育の授業のように見えます。まず学生たちは紙おむつを観察し、吸水実験を行いました。紙おむつの中に含まれる高吸水性ポリマーを取り出し、水を加えることでどのような変化が起こるのかを確かめていきます。学生たちは、どれくらい水を吸うのか、濡れたり重くなったりすることでどう感じるかといったことを考えながら実験を進め、紙おむつの仕組みや性能について理解を深めました。しかし、この授業で重視されているのは、実験結果そのものではありません。例えば、紙おむつに使われている素材は理科の視点につながります。商品の表示や価格、業界のルールは社会科や消費者教育の視点です。使用後の処理やごみ問題は環境問題とも関係しています。さらに、パッケージデザインや広告表現には美術や情報の要素が含まれています。一つの題材から、さまざまな教科へと横断的に学びが広がっていきます。

### 「着目すること」の大切さ

授業中、小崎教授は学生の発言を丁寧に拾いながら話を進めていました。「なぜ今、教科横断が求められていると思いますか?」という問いに対し、ある学生は「子どもたちが単に知識を学ぶだけでなく、未来への一步を踏み出す力を得るためには、自ら学び、課題を解決するサイクルを身につける必要があるからです」と答えました。すると小崎教授は、「未来への一步という言葉がいいですね」と、その表現に着目します。今後、実習に参加する学生たちに、正解がどうかを評価するのではなく、その人らしい視点や言葉を認め、そこから学びを広げていくという授業づくりについても説明がありました。また、小崎教授は授業の中で“着目すること”の大切さについても話しました。「物事の変化を見ることは、全ての学びの基本です。変化に気づける人とは、元の状態がどうであったかを理解している人です。同じように、子どもや保護者の変化に気づける人は、その人たちの前提となる状況を理解しています。変化に気づかない人は、その前提が分かっていないために、何が変わったのかにも気づくことができません。だからこそ、現状を正しく理解することが何よりも重要な前提となります」という言葉に、教育者として必要な視点が込められていました。

### 学生へのメッセージ

「教育現場は、毎日同じ場所に行きますが、毎日違うことが起こる答えのない場所です。一見すると同じことの繰り返しのように思えるかもしれませんが、実際には子どもたち一人ひとりの状態や関係性、出来事によって、その日の状況は大きく変わっていきます。そこで求められるのは、答えのないものや形のないものへの対応力、そして子どもたちと一緒に考えながら形や答えを見つけたり作ったりしていく力です。この“教科横断と探究学習Ⅱ”は、それを身につける第一歩だと思ってもらえたら面白いと思います」



# Volunteer Study After School

## ボランティア「スタディー・アフター・スクール」

大阪教育大学と柏原市が  
連携して行っている  
放課後学習支援事業の活動を  
覗いてみました。



### どんな活動？

スタディー・アフター・スクール(SAS)は、放課後に小学校の空き教室などを利用して、大学生などの指導員が児童の学習活動(宿題や指導員が作成するプリントでの学習)を手助けするものです。活動を通じて、児童の基礎学力の向上、学習習慣の定着、さらにはコミュニケーション能力の向上を図っています。また、学生にとっても、教育現場に近い場所で実践活動を行える、非常に有意義な成長の場となっています。

### 参加までの流れ



2025年度学生代表  
教育協働学科 健康安全科学専攻  
**中山 佳名子**  
Kanako Nakayama

私がSASを通して学んだことは子どもたちとの関わり方です。子どもたちの中には、自分がやりたいことに夢中でこちらの声が届いていない子や、なかなか指示を聞き入れてくれない子がいます。そんな時は、一度子どもたちの目線に立ってみて、なぜ夢中になっているのか、何だったら今頑張れそうかを丁寧に聞くようにしています。初めはまだ信頼関係ができておらず、話を聞き出すだけでも苦労しましたが、何度も活動に参加していくことで少しずつ心を開いてくれて、子どもたちの方から話してくれたときは本当に嬉しかったです。学校の先生となると、ここまで一人ひとりに時間を使うことは難しいかもしれませんが、子どもたちと関係性を築くための試行錯誤を経験できることはSASの最大の魅力であり、教職をめざす人にとって必ず役に立つことだと思います！！

### 参加学生からのメッセージ

学校の先生に近い立場で子どもたちと関わる点が、最大の魅力だと感じています。また、大学の授業で学んだことを週1回のSASの活動で即座に実践できる点にも大きなやりがいがあります。子どもたちが過ごしやすく、活動がスムーズに進むように、自分たちで工夫し、実践できることも魅力です。例えば、SASのルール作成や席順の工夫、シールを活用した意欲づけなどに取り組みました。その結果、「SASが楽しみ」「先生、来週も来る?」「来年も来たい」といった言葉をもらい、大きな達成感を得ました。さらに、学習意欲の低い子どもへの関わり方や声掛けの大切さについても学ぶことができました。

2026年度学生代表  
学校教育教員養成課程  
次世代教育専攻 教育探究コース  
**平川 明音**  
Akane Hirakawa

### 担当校

- 柏原市立堅上小学校
- 柏原市立堅下小学校
- 柏原市立堅下北小学校
- 柏原市立国分小学校
- 柏原市立柏原東小学校

### 柏原市立国分小学校での活動の様子



### 中平 好美校長先生からのメッセージ

国分小学校のSASは、柏原市のモデル事業として実施されていた平成18年度からスタートしています。大阪教育大学生の皆さんには、20年にわたって子どもたちの学習活動を支えていただいています。本校では、3、4年生が参加しており、今年度は30名の応募がありました。学生の皆さんは、どの子も学習に集中できるようにと、教室でのルールや座席を考へたり、一人ひとりに教材を準備したりしてくれています。子どもたちも自分たちの年齢に近い大学生の先生には質問しやすいようで、SASの日を楽しみにしている子も多いです。指導の難しさを感じることもあるかと思いますが、学生の皆さんにとってSASの活動は、将来に向かう貴重な経験になることでしょう。

# Athlete's View

身体などに装着し、臨場感あふれる映像を記録できるカメラを使って、アスリート視点の動画を撮影しました。



女子サッカー部



ソフトテニス部

**YouTube**  
**OKU Channel**  
アスリート視点の動画と  
インタビュー動画が  
見られます。

大阪教育大学 体育会

## ★★★★★ WOMEN'S SOCCER 岡本 花菜

おかもと かな

学校教育教員養成課程  
小中教育専攻 保健体育コース 4回生

大阪教育大学体育会女子サッカー部は、「応援されるチーム」になるという目標を掲げて活動しています。その実現に向けて、集団目標として「凡事徹底」、戦績目標として「春季リーグ1部昇格」を設定しています。サッカーの技術向上だけでなく、挨拶や礼儀、感謝の気持ちを行動で示すなど、当たり前のことを大切にしながら、競技面と人間性の両面で成長できるチームをめざしています。

女子サッカー部の魅力は、オンとオフのメリハリがあるところです。練習中は互いに意見を交わしながら切磋琢磨し、一方で、練習を離れば学年を超えて自然に交流できる温かい雰囲気があり、その信頼関係が試合でのチームワークにもつながっています。

また、私たちの大きな特徴は、選手主体でチームを運営していることです。選手自身で定めた目標を実現するために、練習メニューの作成や試合の分析、チーム運営に至るまで、学年に関係なく全員が意見を出し合いながら活動しています。一人ひとりが自ら考え、行動し、責任をもってチーム作りに取り組んでいます。こうした主体的な姿勢が競技力の向上だけでなく、仲間への信頼や組織としての成長にもつながっています。

これからも支えてくださる方々への感謝を忘れず、「応援されるチーム」の実現と目標達成に向けて、仲間とともに挑戦を続けていきます。

### DATA：女子サッカー部

部員数：19名(選手16名 マネージャー3名)(2026年6月現在)  
戦 績：2025年度関西学生女子サッカー春季リーグ2部 3位  
2025年度関西学生女子サッカー秋季リーグ2部 4位  
2025年度近畿国立大学女子サッカー交流戦 優勝



### DATA：ソフトテニス部

部員数：男子15人 女子4人 計19人(2026年6月現在)  
戦 績：2025年度近畿国立ソフトテニス選手権大会  
男子団体 優勝/女子団体 準優勝  
2025年度 全国教育大学ソフトテニス選手権大会  
男子団体 優勝/女子団体 準優勝  
2026年度 関西春季ソフトテニスリーグ戦  
男子団体3部3位/女子団体4部1位

## ★★★★★ SOFT TENNIS 大導寺 俊介

だいどうじ しゅんすけ

学校教育教員養成課程  
教科教育専攻 理科教育コース 3回生

## 橋本 将幸

はしもと まさゆき

教育協働学科  
スポーツ科学専攻 3回生

### はじめたきっかけ

(大導寺)テニス経験のある家族の影響を受け、ソフトテニスには個人競技と団体競技の両方の面白さがあると感じてやってみようと思いました。  
(橋本)5歳の時にコーチである父にテニスコートに連れ行ってもらったことです。ラケットにボールが当たった時の感覚がとても面白かったことを覚えています。

### パートナーについて

(大導寺)主将として部をまとめている、とても頼りになる存在です。テニスに関してはどのプレーにおいても部活1番の技術をもっていて憧れの存在です。  
(橋本)自分にはない正確さやテニスの面では力強いストロークを持っており、試合中はもちろん普段からとても頼りになる存在です。

### ソフトテニス部はどんな部活か

(大導寺・橋本)男女一緒に練習することが多く、とても仲良く楽しい雰囲気です。練習しています。仲間同士でアドバイスをしあっているため、互いに高めあえる部活でもあります。今年の男子の目標は2部に昇格することで、女子の目標は3部に昇格することです。

### 受験生に一言

(大導寺・橋本)大阪教育大学ソフトテニス部は勉強も部活も全力で頑張ることができます。大教に受かって、ソフトテニス部に入り、楽しい大学ライフを過ごしましょう!そして、一生の思い出を作りましょう!

# LAB

ラボ訪問

陶芸の楽しさを  
多くの人に  
知ってもらうために



表現活動教育系

谷村 さくら 准教授  
SAKURA TANIMURA

Q 大学の先生になろうと思ったきっかけは？

A もともと美術が大好きで大阪教育大学小学校教員養成課程美術専攻に入学しました。4年生で、陶芸を専門としている先生の素敵な作品に出会い陶芸が好きになり、「絶対に一生続けたい」と思いました。この大好きな美術や陶芸の楽しさを一人でも多くの人に伝えたいという思いが、結果的に今の仕事につながっています。

Q 学生時代はどんな学生でしたか？

A 今と全然変わってなくて、好奇心旺盛で活発な女子大学生でした。入学したのはキャンパス移転統合の直前で、1年生の時は池田分校に通い、その後柏原キャンパスに引っ越してからは大学の近くで一人暮らしを始めました。美術専攻は先輩・後輩のつながりがとても強かったので、朝から晩まで仲間とどっぷり一緒に過ごしていましたね。課題制作、アルバイト、当時トレンドだったテニスサークルにも全力で、とにかく毎日を活発に楽しんでいました。

Q 現在の研究内容は？

A 陶芸学習の研究をしています。実際に粘土に触れて自由に形をつくる中にある学びをもとに、幼稚園や小・中学校で授業をさせてもらっています。粘土は含まれる水分量によってさまざまな状態に変化し、何度でもやり直すことができます。一方で、焼成による変化は大きく、思い通りに完成することは多くありません。できあがった作品を見ながら、つくる過程を振り返り、「なぜこうなったのかな」「次はこうしてみたい」と考えるところに、陶芸学習の大きな学びがあると考えています。もちろん、創造する喜びやものづくりの面白さを感じてほしいとも思っています。私自身も植物をモチーフに、



気候変動や環境の変化をテーマにした作品制作を続けています。

Q 大教大の学生の印象は？

A 人との関わりが好きな学生が多いなと感じています。授業にもグループ活動をよく取り入れますが、他専攻の学生同士でも、話し合って協働することを楽しんでいる姿が素晴らしいです。美術の授業では、授業後も教室に残って制作を続ける学生の姿がよく見られます。ほぼ完成していた作品を最初からつくり直すこともあり、納得がいくまで試行錯誤しながら制作に取り組んでいます。

Q どのような授業を担当していますか？

A 美術専攻の授業のほか、小学校の免許を取る学生が全員受ける「図画工作（ICTの活用を含む）」などを担当しています。実際に描く、つくる、観ることを通して表現することの喜びを感じ、子どもたちに伝えるための方法を考えてもらっています。

授業で一番大切にしているのは、「まずは学生自身が表現することをとことん楽しむこと」です。楽しさを知らない子どもたちにも教えられないからです。授業では異なる専攻の学生を混ぜてグループを作り、互いにコミュニケーションを取りながら活動します。多様な仲間と協働する楽しさを知り、将来、社会のさまざまな人と協働していく力を養ってほしいです。

Q 受験生にメッセージをお願いします

A 「将来何がしたいか」がまだぼやけている人は、まず自分の「好きな教科」を思い浮かべてみてください。大教大にはすべての教科の専攻があるので、幅広い選択肢があります。そして、大学に入ったら必ず「新たな学問や人との出会い」が待っています。私自身、大学に入るまで陶芸の楽しさを全く知りませんでした。入学後に初めて出会ったものが一生の宝物になる可能性は大いにあります。大阪教育大学で、自分の好きなことや挑戦したいことに出会い、それを深めていってもらいたいです。



卒業生  
CATCH!



学校が苦手だったからこそ先生に

樋口綾香さんは、小学校の教員として教壇に立ちながら、SNSや著書を通じて主に国語教育の板書や授業について発信しています。「現場に出るようになって、先生ってすごく楽しいなと思いました。子どもと過ごす毎日が幸せ。天職だと思いました」と笑顔で話す樋口さんですが、子ども時代は学校が苦手だったと振り返ります。「田舎で学校まで遠かったり、周りの人間関係の良くないところが目に入ったりして、私にとってはごくしんどい場所でした。先生になりたいと思ったのは、私みたいな気持ちの子どもがいるということを理解して寄り添えたら、子どもたちが少しでも学校が楽しくなるのではと思ったからです」

現在にも続く仲間に巡り会えた学生時代

大阪教育大学を志望した理由は「より都会に近い場所で学びたい」という気持ちからでした。「大学時代は、サークルやアルバイトなどの課外活動に明け暮れる“落ちこぼれ学生”でした」と笑いますが、そこで培った幅広い友人関係が現在の活動の基盤となっています。また、住田勝教授の「板書計画を立てて授業案を作成する授業」が、非常に面白かったと懐かしみます。

板書は子どもへのフィードバック

卒業後、教師になった当初は「学級経営や板書の書き方、学級目標の決め方さえも知らなかったため、隣のクラスの先生の真似ばかりしていました」と話します。その後、附属池田小学校に赴任し、先輩教師から「板書は子どもの思考を整理す



子供の「自発性」を  
引き出し、  
共に創る授業

学校法人雲雀丘学園 雲雀丘小学校 教諭

ひぐち あやか  
樋口 綾香

学校教育教員養成課程  
教育科学専攻教育学コース 2008年卒



る最大のツールである」ことを学びました。「私の授業では、黒板を写すことはほぼありません。私が、子どもたちの発言を黒板に書き留めます。面白い意見や深まっている意見は、黄色やオレンジ色のチョークにすることで、子ども自身が学びの深まりを実感できます。板書自体が子どもへの最大のフィードバックになっています」

子どもの「自発的な学び」を引き出す工夫

仕事のやりがいについて「子どもが授業を面白いと言ってくれたり、自発的に学びを深めたりする姿を見た瞬間が嬉しいです」と語る樋口さん。先日の社会科の授業でも、休み時間に子どもたちが「続きを話し合ってもいいですか？」と集まってきたと言い、自身の工夫が子どもたちの自発的な行動につながることに大きな喜びを感じています。また、授業参観後に保護者から届く「子どもが楽しそうに発表していて感動した」といった温かいメッセージも、日々の仕事の大きな支えになっています。

クラスを超えて全国へ

日々、学んだことや子どもの面白かった発言を記録するために始めたInstagramは、今や多くの教員が注目しています。「発信を続けることで、都道府県を超えて多くの先生方とつながることができました。最近では、私の投稿を見た若い教師が、自校の研修の講師として呼んでくださることも増えました」。「学びたい」という熱意を持った教員たちと交流することで、樋口さん自身の視野が広がったと話します。「自分のク

ラスという小さな単位でやっていたことが学校全体を動かしたり、自治体単位の取り組みにつながったりと、大きな渦になって広がっていることを実感しています。発信を通じて、自分の実践が学びたいと思っている人たちに届いていれば一番嬉しいなと思います」

受験生・在学生へのメッセージ

大学でつながった仲間とは今でもセミナーなどで一緒に活動することがあるという樋口さん。「学生時代につながった仲間は卒業してからも自分の財産になっていくので、大事にしてほしいです。あとは、好きなことを見つけられたら良いなと思います。私は教員になって5、6年経ってからようやく国語教育に夢中になりました。早く見つければその分、充実した学生生活や教員生活が送れると思うので、いろいろなことに挑戦し、本を読み、自分の“好き”を見つけてください」とエールを送ります。



# BAGの中身

おの子の気になる

撮影の裏側をチェック!



YouTube  
OKU  
Channel

夢や希望でいっぱいの大教大生のカバンの中を特別に見せてもらいました

Ibuki  
Heya



- ①合気道の道着 ②ファイルケース ③財布 ④扇子 ⑤スマートフォン  
⑥パソコン ⑦筆箱(父親の手作り) ⑧USBメモリ(印刷物の保管)  
⑨イヤホン ⑩サングラス ⑪汗ふきシート ⑫塾講師として授業する際に扱うテキスト

## 部谷 伊吹

学校教育教員養成課程  
教科教育専攻 社会科教育コース2回生

### 大教大に入学した理由とキャンパスライフについて

高校3年生の頃、進路を決めあぐねていた矢先、当時の担任から「向いている」と強く勧められたことをきっかけに、教員を志すようになりました。そして、同じクラスで教員志望だった友人の影響もあり、大阪教育大学に入学しました。現在はその友人と新たに知り合った友人8人で、いつも行動しています。もともと友人作りにはあまり自信がなかったのですが、環境に恵まれたと常々思っています。最近は演劇と兼部している合気道の両方を生かし、アクロバットに挑戦したいと考えています。そのために、今は2つの分野を極めることに励んでいます。

### 授業を受けるうえで大切なもの

多くの授業は筆記用具とパソコンがあればスムーズに受講することができます。私は、基本的に授業中の板書やメモは全てパソコンで行うため、ノート類はほとんど持ち歩きません。ただし、電子機器の使用を禁止している先生もいらっしゃるの、そのような授業では、裏紙や教科書への書き込みで対応しています。また、レジュメを管理するために、ファイルケースも常に持ち歩いています。現在使用しているものは(写真②)、かつてテレビディレクターだった父が当時愛用していたものを譲り受けたものです。丈夫でコンパクトなうえ、年季も感じられ、大切に使っています。

大阪教育大学附属学校園

WATCH  
ウォッチ

## 附属特別支援学校で「財政教育プログラム」を実施



日本の財政に興味をもちながら社会問題を自分事として捉え、自分の国の将来について考え判断できる知識を育むことを目的とした「財政教育プログラム」を、2月20日(金)に附属特別支援学校高等部5人を対象に、近畿財務局の職員を講師に迎え実施しました。

実施にあたっては、学習指導要領や教科書などを踏まえながら、対象生徒の実態にあわせた財政教育プログラムを実施できるよう、近畿財務局担当3人と岩崎弘副校長が事前協議を行いました。

当日は、全国国立大学附属学校PTA連合会・近畿附属学校PTA連合会・平野五校園連合会および本校PTAの関係者が来校し、授業を参観しました。

## 「学校安全の日」附属池田小学校で追悼行事「祈りと誓いの集い」を実施

平成13年6月8日、本学附属池田小学校は刃物を持った男の侵入を防ぐことができず、8人の児童の命が奪われ、13人の児童と2人の教員が負傷しました。事件から25年を迎えた6月8日(月)、同校で追悼行事「祈りと誓いの集い」があり、児童、保護者、教職員ら約765人が参加しました。

本事業は、事件を風化させず、その教訓と学校安全の思いをつなぎ、広く社会に向けて発信していくため、当時を振り返り、子どもたちにとって安心で安全な学校づくりを誓うものです。

「集い」に先立ち、全学年で「安全科」の授業が行われました。6年生の授業では「祈りと誓いの集いに向けて～学校安全の継承と発展～」をテーマに、「集い」で歌う『ひとつの歌から』を取り上げ、継承と発展について話し合いました。

「集い」では、午前10時12分に犠牲になった8人の名が刻まれた「祈りと誓いの塔」の鐘が児童代表の手で鳴らされ、参加者全員が黙とうを捧げて冥福を祈りました。続いて、荒川真一校長が「事件から25年がたち、事件当時の学校関係者も年齢を重ね、学校現場から退く世代になりつつあります。また、事件当時を知らない若い教員も多くなってきて、事件が風化していくことに危惧を抱くこともあります。しかし、本校で起きた悲惨な事件が風化していくことは、子どもたちを守る学校安全の取り組みが後退していくことを意味します。この6月8日をすべての教育に関わる人々が本校で起きた悲惨な事件を自分事として捉える機会としていただき、各学校、各自治体、関係機関においてそれぞれの学校安全の体制について改めて見つめ直していただきたいと思います」と述べました。



## 演劇集団FREEDOM INFINITYってこんなところ!!

今回の表紙に登場してもらったのは  
演劇集団FREEDOM INFINITYの学生たち。  
活動内容やおすすめポイントを聞いてみました!

私たち演劇集団FREEDOM INFINITYは大学公認の演劇サークルです! 年2回の定期公演や、大学祭での特別公演などに向けて練習を行っています。役者、脚本、音響照明、美術、衣装など、興味のある方は大歓迎です! 未経験で始めている部員も多いです! 大阪教育大学でお待ちしております!



最新のTOPICSは  
こちらからご覧ください



01

## 2026柏原シティ キャンパスマラソンを開催



03

## 令和8年度入学式を挙行



02

## 第1回全日本大学書道 パフォーマンス選手権大会にて 美術・書道教育コースの学生が優勝



04

## 春の学園祭「五月祭」を開催



## やまお基金(大阪教育大学基金) へのご協力について

本学では財政基盤を長期的に支えるとともに、大学及び附属学校園などにおける学生等への支援、教育研究支援並びに国際交流や社会連携の推進等を図ることを目的に「やまお基金(大阪教育大学基金)」を設置しています。この基金を活用して、教育研究、国際交流、社会連携、教育の高度化、スポーツ・芸術の推進、キャンパス環境整備などの事業を行っています。これらの趣旨にご賛同いただき、ご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

一口 1000円 クレジットカード等によるインターネットでのお手続きとなります

●基金の詳細は右のQRコード または 下のURLへ

<https://osaka-kyoiku.ac.jp/university/other/foundation/about.html>



●ご協力いただける場合は上記ページの

「大学基金お申込み」ボタンからお手続きください

大学基金お申込み

F-REGI 寄附支払い ※所得税等の控除の対象です。

[https://kifu.f-regi.com/fc/contribute/osaka\\_kyoiku](https://kifu.f-regi.com/fc/contribute/osaka_kyoiku)

## アンケートに答えて 大教大オリジナルグッズをGET!



大教大ボールペン



大教大マフラータオル

今後のよりよい誌面作りのため、皆様からのご意見やご要望をお待ちしています。アンケート(QRコードを読み取ってご回答ください)にご協力いただいた方の中から、抽選で3名様に**大教大ボールペン&マフラータオルを一色ずつ(色は選べません)**進呈いたします。プレゼントをご希望の方は、フォームにお名前、ご住所、電話番号をご記入ください。

プレゼント応募締切

2026年8月31日(月)必着

※当選者の発表は、プレゼントの発送をもって代えさせていただきます。  
※重複での応募は無効とさせていただきます。



アンケートは  
こちらから

「天遊」とは

「天遊」とは荘子の言葉で、人間の心の中に自然に備わっている余裕を表しています。キャンパス統合移転の記念碑に銘文として刻まれており、揮毫は故水嶋昌(山耀)本学名誉教授によるものです。「天遊」の読みからとった「TenYou」は、「十人十色、その中のあなた」というメッセージを込めています。

